

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	すみれ
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5		
自己評価作成日	平成26年1月24日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2278300211-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成26年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が、利用者1人1人を家族の様な想いで接するよう心掛けており、「お互い様の心」の理念の下、助けたり、助けられたりと、お互いを認め合う事で、その人らしく生き活きた生活が送れるような関わりを大切にしている。また利用者が地域の一人となれるよう、積極的に地域行事に参加する事で、顔見知りの関係ができ、世代を超えて気軽に遊びに来て頂ける様な環境作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主役である利用者本人を、家族・地域・職員等関係者が皆で支え合う「お互いさまの心」を理念とし、職員がケアに臨む心構えを10ヶ条にまとめて行動の指針としている。事業所開設以来十年有余、地域住民や地区の学校等との交流をはじめ、介護に関する相談援助等の施設の専門性を活かした地域貢献を続けており、近隣住民とは近所付き合いと呼べる関係を築いている。施設長は適切な指導力で施設運営を行っており、計画の策定から実行・見直しのプロセスも確立している。職員の明るい雰囲気と家族に対する情報提供等を含めた対応も評価が高く、関係医療機関との確かな連携に安心と信頼が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互い様の心」の理念の下、毎日のカンファレンスや、勉強会や会議などの話し合いを通して意識付けをしている。利用者やご家族や地域の方々、職員同士、関わる方々に感謝の気持ちを持ちながら、日々前向きに取り組んでいる。	「主役は利用者本人」であることを職員が常に意識して行動できるよう、ケアの心構え10ヶ条を明文化し、理念の「お互いさまの心」に沿うサービスの提供につなげている。管理者は会議等で理念の周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、畑で採れたさつまいもで焼いもを作り近所に配るなど近所づきあいを大切にし、気軽に会話できる環境作りに努めている。また学童にお菓子を配りに行ったり、世代を超えての交流を大切にしている。	地域住民との日常的な交流の中で、利用者が安心して過ごして行けるような環境が何より大切であるとの思いを、職員全員が共有している。開設以来の取り組みで、住民と気さくにお付き合いのできる関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の中学校の福祉体験等の受け入れを積極的にを行い認知症の方との触れ合いの場を作っている。行事の際には、事前に回覧板でお知らせし、気軽に参加していただけるにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くのご家族に参加していただけるように、入居されているご家族全員にお手紙を出している。入居されている方にも声をかけて参加していただくこともある。状況報告や課題に対して、意見をいただきながら、検討や改善に努めている。	二ヵ月毎に開催している。家族全員を含む関係者に案内を送付し、事前に議題を示すなど活発な意見交換を促す工夫をしている。家族・住民・行政等多くの関係者が出席し、可能な場合には利用者の参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加時やその都度、困ったことや疑問点などがある時には、浜松市役所や浜北区役所に相談して意見や関連する情報などいただいている。月に1度、介護支援相談員の方に来てもらっている	市役所や区役所の担当者には、何時でも相談し助言を受けることができる。運営推進会議を初め、できるだけ担当者と意見交換する機会を設け、施設の状況を知ってもらうよう努めている。介護相談員も毎月来所している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、施錠をせず、自ら外出される方の見守りを職員は常に意識している。その際には、後ろからついて行ったり、本人の思いくみとるようにしている。身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有意識を図っている。	職員研修等により、言葉遣い一つに至るまで身体拘束に関する正しい知識を理解し、職員全員で共有することに努めている。利用者の思いにできる限り添う見守りで、出入口を施錠することなく日々の支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や会議の中でも学ぶ機会があり、全職員が理解を深めるようにしている。職員の対応の仕方や身体介護の方法なども話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中でも学ぶ機会があり、全職員が理解を深めるようにしている。実際に利用されている方はいない。職員がいつでも確認することが出来るように、ファイルにして本棚に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて分りやすく契約書や重要事項説明書や重度化における指針などを説明し、ご家族に理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中から、言葉や行動から思いをくみ意見を聞くように心がけている。面会時や電話やアンケートなどで、ご家族に、要望や思いを気軽に言っていたりするような雰囲気づくりに努めている。介護相談員にも来ていただいている。	定期的に「あすかだより」を家族に送付し、本人の日常の過ごし方などの情報を書き添えて安心につなげている。面会時の本人と家族の何気ない言葉を大切に、意見箱も活用してケアに反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時には、個人面談や代表者との食事会などでコミュニケーションを図るようにしている。定期的に意見箱を設置し、その都度柔軟な対応に心掛けている。	管理者は職員会議等において誰もが意見を出しやすい雰囲気を作り、職員からの意見・要望を代表者につなげている。また日常的に職員との意見交換の場を持っており、働く意欲の向上や質の確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の参加費や交通費を法人が全額負担してくれている。法人内では、資格取得のための勉強会の開催。リフレックス休暇制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望時や必要時に外部研修に参加している。研修参加者は、施設内にて伝達講習を行い、全職員が理解できるようにしている。状況にあったテーマで勉強会を開いている。また、個々に合わせ丁寧に新人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の主催する事例検討会や発表会に参加し他施設と合同のグループワークをし意見を交換している。他施設の研修を受け入れたり、研修に行かせてもらいサービスの向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から情報をいただく事が難しい時には、御家族に伺ったり情報提供していただいている。入居時にご本人が安心して生活が送れるようご家族より細かい情報を頂き、センター方式をもとに入居前より職員全員が情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をしていただきながら、ご家族の想いを伺い、対応できるようにしている。申込後も定期的にお電話をして、お話を伺うようにしている。入居前には、センター方式を用いてさらにご家族の要望を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容やご本人の状況によって可能な限り対応出来るようにしている。現在は訪問リハビリや訪問歯科の利用を検討し、利用される方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り添いながら、関わりを深めている。家事などを通じて、活躍出来る環境もあり、職員が学ばせていただく事も多い。また、利用者と職員お互いが感謝の気持ちを持ちながら、支え合っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告をしている。また、電話連絡や月1回のお便りなどでも報告している。行事の際には、ご家族に呼びかけて、準備や片付けなど手伝っていただいております、繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力をしていただきながら、友人や兄弟に遊びに来ていただいたり、飼っていた犬を連れてきていただいたりしている。職員は笑顔で挨拶や対応し、また来て頂けるように努めている。	兄弟や友人との関係や、昔からの馴染みの美容院など、商店との継続的な交流が出来るよう、家族の協力も得ながら支援している。また電話や手紙での連絡を取り持つなど、関係が途切れぬように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者一人ひとりの性格や趣味などの情報を共有し、見守りや配慮をするようにしている。耳が遠い方も多く、表情や行動や言葉から気持ちを読み取り、利用者同士のコミュニケーションが潤滑になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったの契約終了の為、その後の関係の継続は、ほとんど無いが亡くなった方のご家族から新たな入居希望をも貰う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて情報収集に努めている。毎日のカンファレンスでは、日々の関わりの中での行動や状態から原因背景を考え、本人の思いをくみとりながら話し合い、本人にあったケアが出来るように努めている。	日々の行動や表情から希望・意向について関心をはらい、把握に努めている。全職員はセンター方式を活用し、本人・家族に関する情報や気付きを共有しながら、一貫したケアを実践できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族や他サービス事業者などから情報（センター方式）をいただき、全職員で把握に努め、ケアに取り組んでいる。入居後も、その都度、ご家族やご友人から情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「いつも」を知り、変化に気付く事が出来るように努めている。朝と夕方の申し送りなどから日によって出来る事やわかる事を見極めながら関わり記録に残している。必要時には状況チェック表を使用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の思いや意見を大切にするためにセンター方式を用いている。また、担当者がまとめたものをカンファレンスで話し合い、全職員の意見を取り入れながら作成している。	介護計画は一人ひとりの心身の状態や、本人の出来る力等を総合的に把握し、全職員の意見と合わせ、利用者主体の暮らしを反映するよう担当者が作成している。六か月毎および随時の見直しを行っている。	計画の見直しに際し、日常記録や状況チェック・ヒヤリハット等の現場の生きた情報を、今以上に工夫して有効活用することにより、更に上質の支援につながることを期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的に日常記録や状況チェック表などへ記入し、情報の共有が出来るように努めている。ヒヤリハットや急変などは色を変えて把握しやすくし、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医の受診は職員が付き添いを行っている。その他の受診は、ご家族にご協力をお願いしている。本人や家族の状況に応じて、送迎等が必要な時には対応している。ご家族や本人の希望に応じてターミナルケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などでは、太鼓・踊り・お手伝いなど様々なボランティアに来ていただいている。訪問理美容や地元中学生の福祉体験の受入や防災訓練では、消防署に協力いただき指導を受けている。地域の清掃に入居者と共に参加したりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族の希望を確認し、ご家族同意を得て協力いただいている。かかりつけ医の受診には、検査内容の把握や送迎など緊密に連携が取れている。毎週木曜日に往診に来ていただいている。急変時には、看護師やかかりつけ医に来ていただいている。	ほとんどの利用者が協力医を利用している。希望するかかりつけ医の受診にも柔軟に対応し、結果の報告等必要な情報は家族に速やかに伝えられている。医療機関との連携が取れており、家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日に2回、顔なじみの看護師に来ていただいている。利用者の状態を毎日報告しており、相談がしやすい環境である。急変時に連絡すると、24時間体制で対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報を細かく提供している。職員はお見舞いに行くようにしている。退院後に過ごしやすいように情報をいただいたり、病院からの説明に立ち会わせていただき、対応策を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明し、同意を得ている。状況に変化があった時には、医師や看護師と職員が連携をとりその都度、ご家族と話し合い、安心していただけるように努めている。	早期から本人や家族と話し合いの機会を持ち、方針の統一を図っている。看取りに際しての職員の心理的負担を、先輩職員がフォローする態勢が構築されている。また医療関係者等との連携が密に取れており、終末期の支援に家族の安心と信頼の評価がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当法人の看護師にその都度助言をいただいている。新人職員にも理解できるように職員による緊急時対応方法の勉強会を重ね、毎月の会議では、考えられる危険性を話し合い、その対応方法をご家族に伝えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導マニュアルをもとに、運営推進会議では消防署、ご家族や地域の代表者、関係者の皆様にも参加していただき避難訓練を行い、皆様と一緒に消防署からの指導助言等をいただき、協力をお願いし、理解を深めている。	災害を想定した実践的な訓練を、地域住民や消防署等関係者の参加で実施し、避難訓練を通じて具体的な見直しを行っている。「明日香緊急時避難図」を近隣に配布し、住民の協力が得られる態勢を構築している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人で過ごせる環境やみんなで楽しく過ごせる環境を整えて、その時々の人々に合わせて選べるようにしている。 その人の性格やその時の気分に合わせ声の掛け方を変えるようにしている。	一人ひとりの誇りを尊重し、職員が利用者に向けて発する言葉の内容や語調に配慮している。日常業務の中で職員それぞれの対応を相互に確認し合い、課題を一つひとつ改善する取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせた声かけや話しやすい環境作りに努めている。意思表示が上手く出来にくい利用者には行動や表情から読み取る事や、2択などで選びやすいよう配慮し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況により、要望が聞かれた時には、可能な限り対応出来るようにしている。入居者の体調の変化や認知症の状態により対応できない時もある。その場合、後日行えるように職員同士コミュニケーションを取り対応出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、本人やご家族の希望でカットや毛染めを行っている。意思表示が上手く出来にくい利用者には、情報から「その人らしさ」を大切に支援するように努めている。本人やご家族の希望により、馴染みの美容院に行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から野菜を切ったり、盛り付けや配膳、片付けなど、会話をしながら行っている。畑で採れたものを調理したり、日曜日には、利用者の好みの物を一緒に作っている。食欲がない時には、嗜好品やお粥やおにぎり、パンなどで対応している。	法人調理部からの配食を利用している。日曜日は利用者の力を活かし、希望を取り入れた独自の献立で職員と一緒に調理している。畑の新鮮な食材を使った一品は、食事の時間の楽しみや喜びとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など記録しており、食欲などの変化が把握できるようにしている。食欲がない時には嗜好品などで柔軟に対応している。水分摂取が少ない時には、本人に合わせた飲みやすい物、好みの物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた支援方法で、歯磨きや義歯洗浄を行っている。毎晩、ポリデントなどの入れ歯洗浄剤を使用している。週1回、訪問歯科により義歯洗浄や口腔ケアを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員がおむつ体験をして、気持ちの理解に努めている。出来る限り、トイレでの排泄が出来るように支援している。状況チェック表を用いてサインや排泄パターンをつかむように心がけ心地良く過ごす事が出来るように支援している。リハビリパンツから布パンツにかえる事ができた方もいる。	排泄の失敗やおむつの使用を減らす試みは、トイレでの排泄と自立に向けた支援として全職員が常に心掛けている。その支援を継続してきた結果、ケアの成果が得られるようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつなどに牛乳や乳製品などを取り入れている。日曜日には、食物繊維が多くとれるような食材を使っている。ココアやコーヒー、スポーツドリンクなどで水分を多く摂れるよう対応している。おむつの方も腹圧をかけトイレでの排泄が出来るようポータブルトイレなど使用し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り入浴したい日に入っていたい。個々の入浴状況を把握し、嫌がる方には安心していただけるように、意識的に関わりを増やしたり、家族に情報をいただき、一人ひとりのタイミングを大切に声かけや工夫や環境作りを心がけている。	入浴日や時間に特段の定めはなく、できるだけ希望に添う支援をしている。拒否する利用者には入浴のタイミングや職員のローテーション、同性介助など、本人の希望等をもとに各々に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や言葉や行動から、体調や疲労などをよみとり、休息が出来るように居室に誘ったり、フロアのソファや和室に休める環境作りに配慮している。夜間眠れない時には、原因を探り、お話を聞きながら、ホットミルクを出したり、添い寝など安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに残し、管理している。処方変更時は、連絡ノートに記入し、全職員が把握出来るようにしている。変化は日常記録に残すようにしている。内服時は個々に合わせた支援とに飲み込むまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からいただいた情報をもとに、利用者の得意分野を活かしながら関わりを持つように努めている。利用者が行きやすいよう環境作りを行い、意識的に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車イスや車などで、庭で日向ぼっこや犬の散歩、買い物やドライブなどに行かれている。大人数での外出は、計画的に行い、個々に合わせた場所選りや少人数対応や、一人ひとりの満足に繋がるように努めている。職員の人数調整やご家族に協力いただき、出来る限り対応している。	日常的な散歩はもとより、四季それぞれに花を愛でる楽しみ等が計画され実践されている。各々の要望に応じた個別の外出と、外出が困難な利用者に合わせた支援で、利用者がそれぞれに楽しめる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理されている利用者もいるが、ご家族よりお金を預かり、当ホームで管理されている利用者が多い。買い物の際は、支払いを出来るだけご本人に行っていただけるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは希望時には、対応している。携帯電話を持っている方もおられ家族や友人と頻繁に連絡を取られている。また、全員ではないが、年賀状を出す為支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、月ごとに季節にあった飾り付けをしている。また、ご家族から季節の花をいただくことも多く季節がわかる植物が置いてある。1階フロアからは藤棚が見えるようになっている。利用者に合わせた環境作りに配慮している。	和室スペースには七段飾りのひな人形が飾られ季節を感じられる。壁のタペストリーや生花も春の訪れを利用者に知らせている。広く明るいフロアと、そこから続く廊下のそれぞれに置かれたソファは、集団と個の寛ぎを満たす場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室などでくつろぐ事が出来るようになっている。窓の近くにもソファや鉢植えなどを置き、心地良く過ごせるように努めている。その時々を利用者の関係に合わせ座席やテーブル、椅子を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や馴染みの物（健康器具）などを持ち込んでいただいている。家具の配置などは安全を考慮し、その都度本人やご家族に相談しながら工夫している。	利用者の希望に応えられる和・洋の部屋が選択できる。部屋には馴染みの家具や仏壇・本・アルバムが置かれ、個々に居心地良い部屋作りをしている。仏壇に供える菓子も、自ら買い物してきた希望の品である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	関わりから、今出来る事やわかる事を見極め支援できるようにしている。個々に合わせて声をかけたり、一緒に行動して、本人の立場になって考えるように努めている。夜間トイレがわかるように必要な所はドアを開け、電気をつけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	ひまわり
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5		
自己評価作成日	平成26年1月24日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2278300211-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成26年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が、利用者1人1人を家族の様な想いで接するよう心掛けており、「お互い様の心」の理念の下、助けたり、助けられたりと、お互いを認め合う事で、その人らしく生き活きた生活が送れるような関わりを大切にしている。また利用者が地域の一員となれるよう、積極的に地域行事に参加する事で、顔見知りの関係ができ、世代を超えて気軽に遊びに来て頂ける様な環境作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互い様の心」の理念の下、毎日のカンファレンスや、勉強会や会議などの話し合いを通して意識付けをしている。利用者やご家族や地域の方々、職員同士、関わる方々に感謝の気持ちを持ちながら、日々前向きに取り組んでいる。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、畑で採れたさつまいもで焼いもを作り近所に配るなど近所づきあいを大切にし、気軽に会話できる環境作りに努めている。また学童にお菓子を配りに行ったり、世代を超えての交流を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の中学校の福祉体験等の受け入れを積極的に行い認知症の方との触れ合いの場を作っている。行事の際には、事前に回覧板でお知らせし、気軽に参加していただけるにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くのご家族に参加していただけるように、入居されているご家族全員にお手紙を出している。入居されている方にも声をかけて参加していただくこともある。状況報告や課題に対して、意見をいただきながら、検討や改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加時やその都度、困ったことや疑問点などがある時には、浜松市役所や浜北区役所に相談して意見や関連する情報などいただいている。月に1度、介護支援相談員の方に来てもらっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、施錠をせず、自ら外出される方の見守りを職員は常に意識している。その際には、後ろからついて行ったり、本人の思いくみとるようにしている。身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有意識を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や会議の中でも学ぶ機会があり、全職員が理解を深めるようにしている。職員の対応の仕方や身体介護の方法なども話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中でも学ぶ機会があり、全職員が理解を深めるようにしている。実際に利用されている方はいない。職員がいつでも確認することが出来るように、ファイルにして本棚に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて分りやすく契約書や重要事項説明書や重度化における指針などを説明し、ご家族に理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中から、言葉や行動から思いをくみ意見を聞くように心がけている。面会時や電話やアンケートなどで、ご家族に、要望や思いを気軽に言っていただけるような雰囲気づくりに努めている。介護相談員にも来ていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時には、個人面談や代表者との食事会などでコミュニケーションを図るようにしている。定期的に意見箱を設置し、その都度柔軟な対応に心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の参加費や交通費を法人が全額負担してくれている。法人内では、資格取得のための勉強会の開催。リフレックス休暇制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望時や必要時に外部研修に参加している。研修参加者は、施設内にて伝達講習を行い、全職員が理解できるようにしている。状況にあったテーマで勉強会を開いている。また、個々に合わせ丁寧に新人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の主催する事例検討会や発表会に参加し他施設と合同のグループワークをし意見を交換している。他施設の研修を受け入れたり、研修に行かせてもらいサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から情報をいただく事が難しい時には、御家族に伺ったり情報提供していただいている。入居時にご本人が安心して生活が送れるようご家族より細かい情報を頂き、センター方式をもとに入居前より職員全員が情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をしていただきながら、ご家族の想いを伺い、対応できるようにしている。申込後も定期的にお電話をして、お話を伺うようにしている。入居前には、センター方式を用いてさらにご家族の要望を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容やご本人の状況によって可能な限り対応出来るようにしている。現在は訪問リハビリや訪問歯科の利用を検討し、利用される方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り添いながら、関わりを深めている。家事などを通じて、活躍出来る環境もあり、職員が学ばせていただく事も多い。また、利用者と職員お互いが感謝の気持ちを持ちながら、支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告をしている。また、電話連絡や月1回のお便りなどでも報告している。行事の際には、ご家族に呼びかけて、準備や片付けなど手伝っていただいております、繋がり大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力をしていただきながら、友人や兄弟に遊びに来ていただいたり、飼っていた犬を連れてきていただいたりしている。職員は笑顔で挨拶や対応し、また来て頂けるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者一人ひとりの性格や趣味などの情報を共有し、見守りや配慮をするようにしている。耳が遠い方も多く、表情や行動や言葉から気持ちを読み取り、利用者同士のコミュニケーションが潤滑になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったの契約終了の為、その後の関係の継続は、ほとんど無いが亡くなった方のご家族から新たな入居希望をも貰う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて情報収集に努めている。毎日のカンファレンスでは、日々の関わりの中での行動や状態から原因背景を考え、本人の思いをくみとりながら話し合い、本人にあったケアが出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族や他サービス事業者などから情報(センター方式)をいただき、全職員で把握に努め、ケアに取り組んでいる。入居後も、その都度、ご家族やご友人から情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「いつも」を知り、変化に気付く事が出来るように努めている。朝と夕方の申し送りなどから日によって出来る事やわかる事を見極めながら関わり記録に残している。必要時には状況チェック表を使用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の思いや意見を大切にするためにセンター方式を用いている。また、担当者がまとめたものをカンファレンスで話し合い、全職員の意見を取り入れながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的に日常記録や状況チェック表などへ記入し、情報の共有が出来るように努めている。ヒヤリハットや急変などは色を変えて把握しやすくし、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医の受診は職員が付き添いを行っている。その他の受診は、ご家族にご協力をお願いしている。本人や家族の状況に応じて、送迎等が必要な時には対応している。ご家族や本人の希望に応じてターミナルケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などでは、太鼓・踊り・お手伝いなど様々なボランティアに来ていただいている。訪問理美容や地元中学生の福祉体験の受入や防災訓練では、消防署に協力いただき指導を受けている。地域の清掃に入居者と共に参加したりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族の希望を確認し、ご家族同意を得て協力いただいている。かかりつけ医の受診には、検査内容の把握や送迎など緊密に連携が取れている。毎週木曜日に往診に来ていただいている。急変時には、看護師やかかりつけ医に来ていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日に2回、顔なじみの看護師に来ていただいている。利用者の状態を毎日報告しており、相談がしやすい環境である。急変時に連絡すると、24時間体制で対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報を細かく提供している。職員はお見舞いに行くようにしている。退院後に過ごしやすいように情報をいただいたり、病院からの説明に立ち会わせていただき、対応策を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明し、同意を得ている。状況に変化があった時には、医師や看護師と職員が連携をとりその都度、ご家族と話し合い、安心していただけるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当法人の看護師にその都度助言をいただいている。新人職員にも理解できるように職員による緊急時対応方法の勉強会を重ね、毎月の会議では、考えられる危険性を話し合い、その対応方法をご家族に伝えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導マニュアルをもとに、運営推進会議では消防署、ご家族や地域の代表者、関係者の皆様にも参加していただき避難訓練を行い、皆様と一緒に消防署からの指導助言等をいただき、協力をお願いし、理解を深めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人で過ごせる環境やみんなで楽しく過ごせる環境を整えて、その時々の人に合わせて選べるようにしている。 その人の性格やその時の気分に合わせて声の掛け方を変えるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせた声かけや話しやすい環境作りに努めている。意思表示が上手く出来にくい利用者には行動や表情から読み取る事や、2択などで選びやすいよう配慮し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況により、要望が聞かれた時には、可能な限り対応出来るようにしている。入居者の体調の変化や認知症の状態により対応できない時もある。その場合、後日行えるように職員同士コミュニケーションを取り対応出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、本人やご家族の希望でカットや毛染めを行っている。意思表示が上手く出来にくい利用者には、情報から「その人らしさ」を大切に支援するように努めている。本人やご家族の希望により、馴染みの美容院に行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から野菜を切ったり、盛り付けや配膳、片付けなど、会話をしながら行っている。畑で採れたものを調理したり、日曜日には、利用者の好みの物を一緒に作っている。食欲がない時には、嗜好品やお粥やおにぎり、パンなどで対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など記録しており、食欲などの変化が把握できるようにしている。食欲がない時には嗜好品などで柔軟に対応している。水分摂取が少ない時には、本人に合わせた飲みやすい物、好みの物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた支援方法で、歯磨きや義歯洗浄を行っている。毎晩、ポリデントなどの入れ歯洗浄剤を使用している。週1回、訪問歯科により義歯洗浄や口腔ケアを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員がおむつ体験をして、気持ちの理解に努めている。出来る限り、トイレでの排泄が出来るように支援している。状況チェック表を用いてサインや排泄パターンをつかむように心がけ心地良く過ごす事が出来るように支援している。リハビリパンツから布パンツにかえる事のできた方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつなどに牛乳や乳製品などを取り入れている。日曜日には、食物繊維が多くとれるような食材を使っている。ココアやコーヒー、スポーツドリンクなどで水分を多く摂れるよう対応している。おむつの方も腹圧をかけトイレでの排泄が出来るようポータブルトイレなど使用し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り入浴したい日に入ってもらっている。個々の入浴状況を把握し、嫌がる方には安心していただけるように、意識的に関わりを増やしたり、家族に情報をいただき、一人ひとりのタイミングを大切に声かけや工夫や環境作りを心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や言葉や行動から、体調や疲労などをよみとり、休息が出来るように居室に誘ったり、フロアのソファや和室に休める環境作りに配慮している。夜間眠れない時には、原因を探り、お話を聞きながら、ホットミルクを出したり、添い寝など安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに残し、管理している。処方変更時は、連絡ノートに記入し、全職員が把握出来るようにしている。変化は日常記録に残すようにしている。内服時は個々に合わせた支援とに飲み込むまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からいただいた情報をもとに、利用者の得意分野を活かしながら関わりを持つように努めている。利用者が行いやすいよう環境作りを行い、意識的に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車イスや車などで、庭で日向ぼっこや犬の散歩、買い物やドライブなどに行かされている。大人数での外出は、計画的に行い、個々に合わせた場所選びや少人数対応や、一人ひとりの満足に繋がるように努めている。職員の人数調整やご家族に協力いただき、出来る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理されている利用者もいるが、ご家族よりお金を預かり、当ホームで管理されている利用者が多い。買い物の際は、支払いを出るだけご本人に行っていたるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは希望時には、対応している。携帯電話を持っている方もおられ家族や友人と頻りに連絡を取られている。また、全員ではないが、年賀状を出す為支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、月ごとに季節にあった飾り付けをしている。また、ご家族から季節の花をいただくことも多く季節がわかる植物が置いてある。1階フロアーからは藤棚が見えるようになっている。利用者に合わせた環境作りに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室などでくつろぐ事が出来るようになっている。窓の近くにもソファや鉢植えなどを置き、心地良く過ごせるように努めている。その時々利用者の関係に合わせ座席やテーブル、椅子を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や馴染みの物(健康器具)などを持ち込んでいただいている。家具の配置などは安全を考慮し、その都度本人やご家族に相談しながら工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	関わりから、今出来る事やわかる事を見極め支援できるようにしている。個々に合わせて声をかけたり、一緒に行動して、本人の立場になって考えるように努めている。夜間トイレがわかるように必要な所はドアを開け、電気をつけている。		